

水田たより 9月号

令和7年9月1日

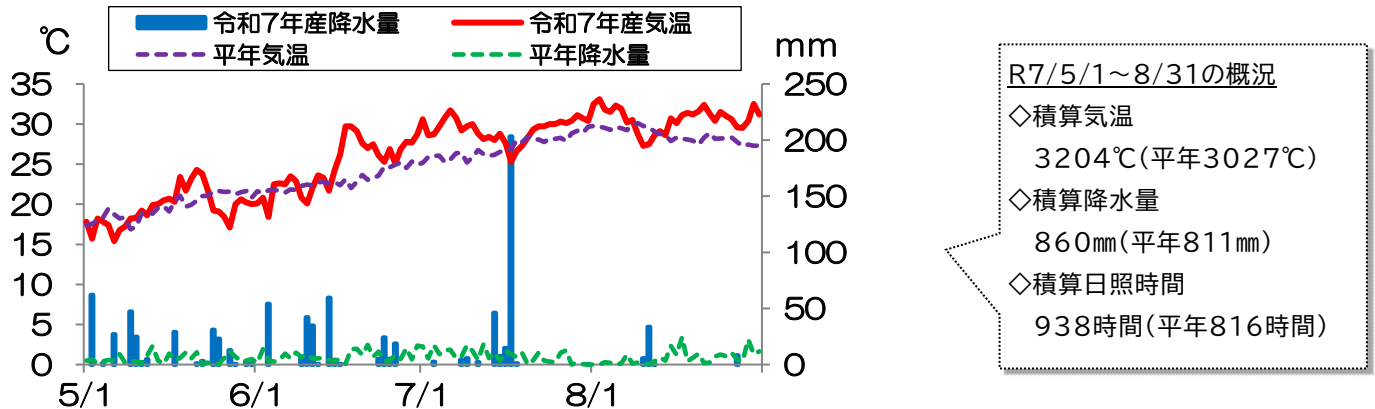
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

水稲

気象状況と成熟期予測

6月中旬以降、平均気温が高く推移しています。気象庁の1か月予報（8/28発表）では、今後1か月の気温が、平年より高い確率が80%と予想されています。引き続き、熱中症に気をつけて作業してください。



◇成熟期予測（8月31日時点）

品種	移植日	出穂期 (前年)	成熟期見込み (前年)
キヌヒカリ（いなべ）	5月20日	8月2日 (7月30日)	9月2日 (9月3日)

生育基準田調査及びメッシュ農業気象・水稲生育予測システムから出穂期見込みを算出。

水稲

来作に備え、秋起こしをしましょう

秋起こしは、翌年の稲作の成功を左右する重要な作業です。以下のように、様々な効果が期待できます。また、ほ場からの稲わらの流出を防ぐためにも重要です。収穫後早め（できれば10月頃まで）に行いましょう。

○ジャンボタニシ（スクリミングガイ）対策

秋起こしにより、土中で越冬するジャンボタニシを物理的に破壊することが重要です。

ポイント

- ・深く耕起すると、地表表面のジャンボタニシをかえって地中に埋め込んでしまう恐れがあるので、浅起こししましょう（目安5～10cm）。
- ・トラクターの走行速度は遅めにします（時速1.3km～1.5km程度）。
- ・ロータリーの回転は早めにします（PTO回転800rpm程度）。
- ・作業後、使用したトラクターをよく洗浄し、別のほ場にジャンボタニシを持ち込まないようにしましょう。



○土づくり

微生物が活発な気温が高い時期に稲わらをすき込むことで、稲わらの腐熟を促進することができます。

期待できる効果

- ・土壌の団粒構造が形成され、保水性や透水性が改善し、根が健全に生育しやすくなります。
- ・稲わらに含まれるケイ酸を補給できます。ケイ酸は白未熟粒対策に重要です。
- ・稲わらが十分に腐熟することで、翌年の硫化水素ガスの発生を抑制できます。

○排水対策

水稻収穫後は、早期に周囲明渠（額縁明渠）を設置しほ場を乾かします。土砂が溜まりやすい隅や排水口は定期的な確認が必要です。



○土壌改良 土壌診断で現状や変化を把握しましょう

【土づくり】資材例：牛糞堆肥、腐植酸資材

麦類は茎立期以降に窒素の吸収量が多くなります。また、麦類が吸収する窒素のうち、約半分が土壌由来、約半分が施肥由来です。そのため、短期的には追肥重点型の施肥により窒素不足を回避すること、長期的には土づくりにより土壌中の可給態窒素を増やすことで安定した多収が見込めます。

【pH 矯正】資材例：苦土石灰、炭酸石灰（施用量の目安：

pH5.5 以上では 100kg/10a、pH5.5 以下では 200kg/10a）

麦類の適正 pH は 6.0～6.5 です。pH の低下に伴い生育が抑制されます（写真 1）。

※牛糞堆肥の施用と石灰質資材による pH 矯正を連続して行う場合は、牛糞堆肥の施用後 1～2 週間空けてから石灰質資材を散布するように注意してください。



pH6.5 pH5.5 pH5.0

【ケイ酸質資材】資材例：ケイ酸入り複合資材、ケイ酸加里

水稻と同様に麦類もケイ酸を必要とします。ワラのすき込みと資材投入で供給しましょう。

写真 1 「さとのそら」止葉抽出期
（出展：小麦新品種「さとのそら」の品種特性と栽培について 三重県農業研究所より）

個別のご相談は、桑名普及センターもしくは JA みえきた営農センターまでお願いします。

大豆

害虫に引き続き注意を！

予察灯におけるハスモンヨトウの誘殺数（三重県病虫害防除所発表、調査場所：松阪市嬉野川北町）（図 2）及び吸実性カメムシ類の誘殺数（同上）（図 3）は平年より多い状況です。

一方、管内のほ場では 8 月上旬から両害虫の発生が見られています。発生状況は地域やほ場によって異なるため、ほ場内を細かく観察し、発生が続く場合は追加で防除しましょう。

ハスモンヨトウ

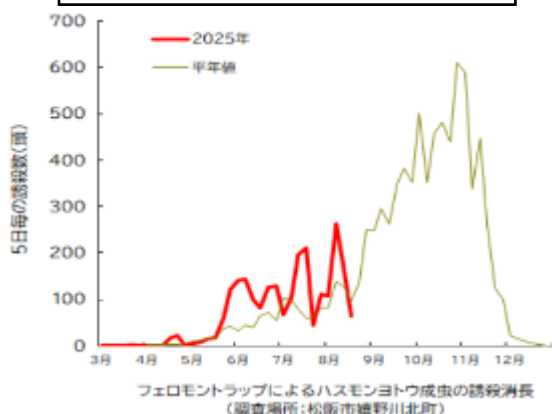


図 2 ハスモンヨトウ成虫の発生消長
（出展：三重県病虫害防除所）

吸実性カメムシ類（ミナミアオカメムシ）

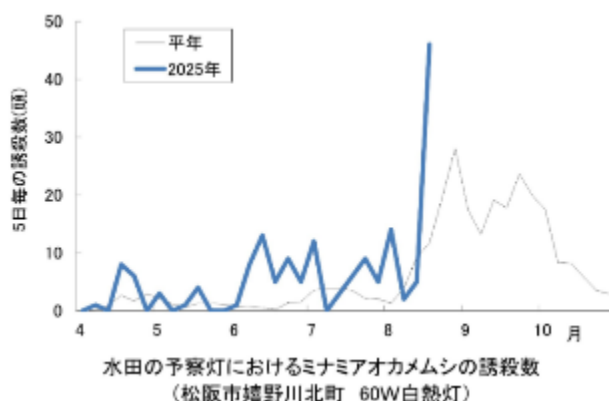


図 3 ミナミアオカメムシの発生消長
（出展：三重県病虫害防除所）

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索